

JENESYS2019 ASEAN 派遣プログラム第4陣の記録 テーマ：日本文化交流，派遣国：タイ王国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の一環として、日本の高校生および引率者計 17 名が 2019 年 12 月 10 日～12 月 18 日の 8 泊 9 日の日程でタイ王国へ派遣され、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行はタイ訪問中、日本の ODA サイトや地元企業等への訪問・視察を通じて、両国の関係、および日本の国際貢献に関する知見を深めるとともに、日本がタイに対して社会的・経済的に大きく影響・貢献していることを学びました。加えて、学校交流やホームステイにおいて、日本文化の特色を説明し、同世代の学生や地域の人々と相互理解を深めました。一行はプログラム中、タイ王国における対日理解の促進、日タイ間の信頼関係増進の基盤強化を目的として、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪泰経験を活かした帰国後のアクション・プラン(活動計画)についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】 佐久長聖高等学校(長野県)8 名，立命館慶祥高等学校(北海道) 8 名

2. 日程

12月10日(火)

【移動】東京からタイへ

12月11日(水)

【オリエンテーション】在タイ日本国大使館

【表敬】タイ政府 社会開発・人間の安全保障省青少年局

【文化視察】バンコク市内(王宮・暁の寺・インジャルーン市場)

12月12日(木)

【講義】ジェトロ・バンコク事務所(テーマ：日本企業のタイでの展開)

【講義】JICA・バンコク事務所(テーマ：日本のタイへの開発協力)

【ODA 視察】商業港建設事業(レムチャバン港)―上水道整備計画(バンケン浄水場)

【講義】チュラロンコン大学(テーマ：工学系大学の広域連携プロジェクト AUN/SEED-Net)

12月13日(金)

【学校交流】Satriwithaya Girls School：授業参加，意見交換，プレゼンテーション(テーマ：各参加者の出身地の魅力 北海道と長野県佐久市紹介)

【ホームステイ】ホストファミリーと合流

12月14日（土）

【ホームステイ】バンコク市内

12月15日（日）

【地方視察】アユタヤ県

【ボランティア体験】Wat Sra kaeow タイ孤児スクールボランティアプログラム

12月16日（月）

【視察】日系企業視察

【視察】現地教育財団視察

【ワークショップ】成果報告会準備

12月17日（火）

成果報告会

【移動】タイから東京へ

3. プログラム記録写真



12月11日【オリエンテーション】
在タイ日本国大使館



12月11日【表敬】
社会開発・人間安全保障省
児童・青少年保護および安定支援事務局



12月11日【視察】
バンコク市内



12月12日【視察】
ジェトロ・バンコク事務所



12月12日【ブリーフィング】
JICA(日本のタイへの貢献)



12月12日【ODA サイト視察】
レムチャバン港



12月12日【ODA サイト視察】
バンケン浄水場



12月12日【ODA サイト視察】
チュラロンコン大学



12月13日【学校交流】
サットリー ウィタヤー校



12月14日【ホームステイ】



12月15日【ボランティア体験】
タイ孤児スクールボランティア
プログラム



12月16日【視察】
パーソナルコンサルタント
マンパワータイランド



12月16日【視察】
ドゥアン・プラティーブ財団



12月17日【成果報告会】

4. 参加者の感想(抜粋)

◆ 高校生(佐久長聖高等学校)

私のホストファミリーはなんと言っても「笑顔」が素敵でした。いつでもニコニコしていてその空間の中に入れる私はとても幸せだなあと感じました。そして、タイが「微笑みの国」と言われているのも理解できました。笑顔の素敵なホストファミリーは 1 日目の夜私をサイアムスクエアという場所へ連れて行ってくださりました。サイアムスクエアは日本でいう渋谷にあたる場所だそうです。サイアムスクエアはとても発展していてあまり発展していないまちと同じ国とは思えないほど建物や食べ物などが充実していました。この格差はどんどん広がっていくばかりのように思えます。私のホストファミリーは毎日充実した生活を多分送っていて、今回私はいわゆる富裕層にあたる御家族に迎えられました。だから、何不自由なく楽しい時間を過ごせましたが、私がもし貧困層の方の家にホームステイしていたら富裕層では考えられないような経験をしていたかもしれません。だからこそ今回のホストファミリーにはたくさん感謝をし、そして改めて格差問題について深刻に考えるべきだと思いました。

◆ 高校生(佐久長聖高等学校)

屋台で使う水は汚く、衛生面が悪いとのことでした。だから、水道水も飲めない状態であり、日本で言う市場で魚を売るときに魚の下に置いてある氷と同じくらい汚いそうです。また、インバウンドは増えていますが、アウトバウンドはこれからもっと増やしていきたいという風におっしゃっていたので、私たちがその架け橋となるように頑張ろうと思いました。

◆ 高校生(立命館慶祥高等学校)

現地校訪問として、サトリーウィッタヤー高校に行きました。行く前から生徒数は 3000 人を超える学校だとは聞いていましたが、実際に見てみると本当にすごい人数で驚きました。その前で自己紹介とあいさつをするのは緊張しましたが、皆さんが温かく迎えてくださってうれしかったです。一緒に授業を受けたバディは日本語がとても上手で、コミュニケーションに困ることはありませんでした。私たちはあいさつ程度しかタイ語を話せませんでした。これを機に少しタイ語を勉強してみたいと思いました。一緒にフラワーガーランドを作ったり、タイダンスを踊ったりしました。現地の文化に触れることができよかったです。日本文化の紹介もしましたが、楽しそうに聞いてくれたので、これをきっかけにしてもっと日本を好きになってほしいと思いました。

◆ 高校生(立命館慶祥高等学校)

訪問先も多かったのでたくさんお話をいただきましたが、やはりタイが世界の格差国であることなど、貧富の差の面でいまだに多くの課題が残っていることを実感しました。チュラロンコン大学の方では、私たちがアクション・プランを考えていた海洋プラスチック問題、さらにPM2.5や大気汚染などの新しい観点からのお話もたくさん頂けました。今まであまり触れてこなかった内容も多かったので難しく、理解しきれない部分もあったけど、世界を目指す私たちにとってほんとうに貴重な経験になりました。多くの発展途上国がある中で、日本が先進国としてリードし、援助していく必要も感じました。しかし、いまアジアの国々も急速に発展していて、このままでは後れを取ってしまう可能性もあると感じたので、私たちの世代が考えていかなければと思いました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 学校関係者

日本とタイ双方の学生が人、文化等について学べる素晴らしい機会だと思います。現地の方と触れ合う事は日本の学生にとっては、新しく学ぶことがあったかと思えます。日本人の学生は現地の学生と積極的に話してくれ、タイの学生は喜んでおります。また、タイ人に質問をしてくださり、いい交流会になったと思えます。

◆ 学生関係者

日本の学生と交流して、心から日本を旅したいと思いました。この交流プログラムを通じ、両国に関する知識を恐竜し、両国の友好を深め、関係を向上できたと思えます。今回、タイの学生は、海外から来た人々と信仰や文化の違いはありながらも、コミュニケーションをとり、絆を深めていく方法を学びました。

6. 参加者の対外発信

<p>2019年12月19日 18:16</p> <p>タイに来て8日目、ついに最終日を迎えることとなりました。企業の訪問は昨日で終わりです。今日はこれまで見てきたタイの現状をもとに、私たちに出来ることは何か、考えてきたものをアクションプランとして発表しました。</p> <p>私たち、立命館慶祥高校は近年増えている海洋プラスチックの削減のために、タイ国内で問題視されているポイ捨てを減らす方法を考えました。教育の格差の問題があることから、まだ小さい子供たちに環境問題について親しみやすい絵本を作り、私たちの学校から北海道、日本、そして世界の子供たちに環境問題について考えてもらう方法を提案しました。帰国後も活動は続きますが、精一杯取り組んでいきます。</p> <p>そして午後はワット・ブラ・クア、別名エメラルド寺院と呼ばれる王宮に行きました。これまでのタイの研修の集大成として、タイにいれるのも、それまで共に活動してきた仲間と一緒にいれる時間も長くはないと思つと複雑な気持ちはありました。ですが景色は本当に輝びやかで美しく、私たちの背中を押してくれるように感じました。</p> <p>あっという間の8日間でしたが、今回学んだことは一生忘れません。私たちに素晴らしい経験を与えてくださった方々、支えてくれた方々には感謝しかありません。本当にありがとうございました。</p> <p>#JAD1210</p> 	<p>2019年12月14日</p> <p>~タイ派遣4日目夜、5日目~ 1泊2日でホームステイをしました。最初は不安だったけど、ホストファミリーに出会った瞬間から優しく接してくれてたくさん良くて頂きました。あと、タイドレスも着ました。そもそもタイドレスの事をよく知らなかったけどすごく可愛くて嬉しかったです。タイの歴史を知れるミュージアムにも行けて、日本に似た文化や違った文化に触れることができました。すごく短い時間でもすごく温かく迎えてくれたホストファミリーにとっても感謝しています。</p> <p>#JAD1210</p> 
<p>近年増えている海洋プラスチックの削減の為に、タイ国内で問題視されているポイ捨てを減らす方法を考えました。教育の格差の問題があることから、まだ小さい子供たちに環境問題について親しみやすい絵本を作り私たちの学校から北海道、日本、そして世界の子供たちに環境問題について考えてもらう方法を提案しました。</p>	<p>タイドレスも着ました。そもそもタイドレスの事をよく知らなかったけどすごく可愛くて嬉しかったです。タイの歴史を知れるミュージアムにも行けて、日本に似た文化や違った文化に触れることができました。すごく短い時間でもすごく温かく迎えてくれたホストファミリーにとっても感謝しています。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



格差は世界一

・積極的な情報発信

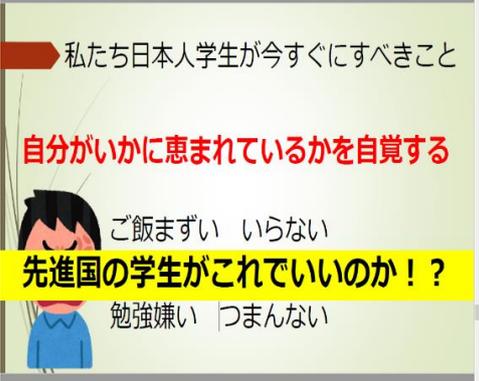
「タイは貧富の格差が世界一」ということを教えていただき、実際にスラム街の様子には衝撃を受けた。特に、孤児院やスラム街の幼稚園訪問はショッキングで、子どもたちのために何ができるかを考えた。格差が埋まらない原因として、貧しい人々が「貧しい」と思っていないで、現状を良しとしていることに注目した。タイの現状を知ってもらうことで、同志を集めていくことで解決に近づくとと思うので、積極的な情報発信を継続していきたい。

JETRO
(日本貿易振興機構)



JICA タイ事務所





私たち日本人学生が今すぐにすべきこと

自分がいかに恵まれているかを自覚する

ご飯まずい いらない

先進国の学生がこれでいいのか!?

勉強嫌い つまんない

・「日本にも格差問題はある」ということ

今後のアクションプランですが、注目したのは「日本にも格差問題はある」ということです。外国の大きな問題を私たちがどうこうしようと言う前に、まずは自国の問題に目を向けようという結論になりました。日本にも経済的理由などにより十分に教育を受けることができない子どもたちが大勢います。そういう子どもたちを支援しているNPO、ボランティア団体をリサーチし、可能な限りその活動に参加させていただく、というところまで話は進んでいます。そして、私がDCYの方々とコンタクトを取り続けているので、日本でのボランティア活動を通して学んだことなどをDCY、在タイ日本大使館、JICAなどに発信できればと考えています。



・タイで起きている出来事への課題意識

タイでは海洋プラスチック問題が深刻化している。2019年4月には、絶滅危惧種であるジュゴンの赤ちゃんが保護され、8月には初夏帰還にプラスチック片を詰まらせて死亡したという痛ましい出来事が、日本でも報道された。原因の一つとして、プラスチックゴミの放棄が挙げられる。

・アクションプラン

「未来を担う子どもたちへの環境教育を行うための絵本の作成」

- ① 学年集会で研修報告の場を設定し報告することで、私たちと同じような課題意識を持ってもらう
- ② 絵本づくりを行うことも知らせ、一緒に活動したい人を募ることで、活動の輪を広げる
- ③ 幼稚園や保育園で絵本の読み聞かせを行う
→直接伝えることで、一人でも多くの子どもたちに環境について考えてもらう
- ④ 立命館慶祥高校だけでなく、中学校、また、他の附属校にも活動の輪を広げる
また、今回の研修でお世話になった外務省やJICAの方にも協力をしていただき、多くの人に絵本を広げたい
- ⑤ つくった絵本をタイ語にして、現地で交流した学生たちと協力し、タイにも広げる。
また、タイの高校生たちにもタイの現状を絵本などにしてもらい、タイに合った絵本を作ってもらい、現地の学校でも活動を広げてもらう

事業実施団体：株式会社JTB